Giant volar melanotic macule

Giant volar melanotic macule

竹松 英明* 薄場 泰子* 加藤 泰三* 田上 八朗*

Summary

42歳，男性。右踵を釘で刺し，皮下出血を生じた後，褐色調の色素斑が徐々に拡大し，約30年の経過で，右踵全体に及ぶ大きさになった。色素斑内には淡褐色から暗褐色の色調が混在し，悪性黒色腫が強く疑われた。しかし，色素斑の辺縁は比較的整で，色素斑内に腫瘍あるいは潰瘍形成を認めなかった。組織学的には，長い樹枝状突起を伸ばしたメラノサイト内，および角層を含む表皮全層に及ぶメラニンが目立ったが，メラノサイトの増殖は認められなかった。本症例の組織所見は，volar melanotic maculeに相当することから，その大型のものとしてgiant volar melanotic maculeとして報告した。

緒 言

手掌，足底に出現する黒色腫は，比較的大型で，淡褐色から黒褐色までの濃淡のある色調を有し，辺縁が不整であるという臨床的特徴を有する^{1,2)}。また，色素斑の中央には，結節あるいは潰瘍を形成していることが多い。一方，これらの部位に出現するvolar melanotic maculeは，一様な色調を有する褐色調の色素斑で，黒人に比較的好く認められるとされている³⁾。大きさは数mmから2 cm前後であり，組織学的には，メラノサイト内あるいは表皮全層にわたるメラニン顆粒の増加が特徴的である。

私達は，約30年間にわたり徐々に増大してきた右踵全体に及ぶ大型の色素斑を経験した。色

素斑内には淡褐色から暗褐色までの濃淡のある色調が混在し，臨床的に悪性黒色腫が強く疑われた。しかし，色素斑内に腫瘍あるいは潰瘍形成を認めず，組織学的にも，メラノサイトの増殖はなく，長い樹枝状突起を伸ばしたメラノサイト内および角層を含む表皮全層にわたるメラニンの増加のみであった。このような特異な臨床像，組織像を述べると共に，giant volar melanotic maculeとして報告する。

症 例

患 者：42歳，男性。

家族歴，既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：11歳の時，誤って右踵を釘で刺し，右踵全体に及ぶ皮下出血を生じた。刺傷部位は二次感染無く治癒したが，出血部位に一致して淡褐色調の色素沈着が残った。この色素沈着は次第に目立たなくなっていくが，受傷約2年後から，褐色調の色素斑が，刺傷部位を中心に

* Hideaki TAKEMATSU, Yasuko USUBA, Taizo KATO, Hachirou TAGAMI, : 東北大学皮膚科学教室

遠心性に拡大し始めた。色素斑は徐々に拡大し、約30年の経過で色素斑は右踵全体に及び、色調も黒褐色調の部分混在するようになってきた。

現 症：右踵全体から右足の内側にかけて大型の色素斑を認めた(図1)。色素斑の形状はほぼ円形で、辺縁は比較的整であった。色調は一様でなく、淡褐色調から黒褐色調までの部分が混在していたが、脱色素斑はみられなかった。色素斑内に腫瘤あるいは潰瘍形成を認めず、皮野形成が保たれていた。また、右そけい部リンパ節の腫大を触知しなかった。

図1. 右踵全体から右足の内側にかけてみられる色素斑。淡褐色から暗褐色までの濃淡が混在し、辺縁は整。色素斑内に腫瘤あるいは潰瘍形成を認めない。

治療および経過：臨床的に悪性黒色腫と診断し、生検を行わず、色素斑を辺縁から1 cm離し、筋膜上で切除し、同時に予防的に右そけい部リンパ節を郭清した。術後5年経過しているが、色素斑の再発を認めない。

組織所見：角層を含む表皮全層にわたりメラニンの増加を認めた(図2 a)。表皮基底層のメラノサイトは長い樹枝状突起を伸ばし、樹枝状突起内にはメラニン顆粒を多数認めた(図2 b)。表皮基底層には、母斑細胞あるいは黒色腫細胞を認めず、さらに、これらの細胞の無いことを連続切片を作製し確認した。真皮乳頭層にメラノファージを認めなかった。右そけい部リンパ節中にメラニンを有する細胞を散在性に認めた(図3)。リンパ節中のメラノサイトの有無を明らかにするため、抗S 100蛋白抗体で染色し

図2. 色素斑の組織所見。

(a)表皮基底層から角層にかけてメラニンを多量に認める(メラニン染色；×40)。

(b)メラノサイトはメラニンを含む長い樹枝状突起を伸ばしている。メラノサイト数の増加は認められない(ヘマトキシリン-エオジン染色；×100)。

図3. 右そけい部リンパ節の組織像。メラニンを含む細胞を散在性に認める(ヘマトキシリン-エオジン染色；×100)。

たところ、多数の細胞が染まり、メラノサイトとメラニンを貪食した細胞の鑑別は出来なかった。

考 察

本症例の色素斑は、右踵全体に及ぶ大型のもので、淡褐色から暗褐色までの濃淡の色調が混在するという臨床所見を呈し、悪性黒色腫が強く疑われた。ただし、右踵全体に及ぶ大きさにもかかわらず、腫瘍あるいは潰瘍形成を認めないことが、悪性黒色腫に一致しない点であった。一方、組織学的には、長い樹枝状突起を伸ばしたメラノサイトから角層を含む表皮全層に及ぶメラニン増加が主であり、表皮基底層に、明らかなメラノサイトの増殖あるいは異型なメラノサイトを認めなかった。さらに、メラノサイトの真皮への浸潤を認めないことを、切除標本の連続切片を作製し確認した。また、単純黒子で見られるような、表皮突起の延長も明らかでなかった。以上のように、本症例では、濃淡の混在する、大型の色素斑で、悪性黒色腫を疑わせる臨床所見を呈しながら、組織学的に認められる所見は表皮内のメラニンの増加のみという解離が特徴的である。

Volar melanotic maculeと報告された色素斑は、組織学的に、表皮全層あるいは長い樹枝状突起を有するメラノサイト内のメラニンの増加が特徴的である³⁾。表皮基底細胞中のメラニン増加を主とするものが最も多く、それ以外に、メラニン増加が基底層から角層にわたるものがあり、長い樹枝状突起を伸ばしたメラノサイト中のみメラニンを認めるものは最も頻度が低い。臨床的には、数mmから2cm前後のことが多いとされている。本症例は、臨床的に、右踵全体に及ぶ大きさになり、色調も一様でなく、濃淡の混在しているという特異な臨床所見を有するが、組織所見は、長い樹枝状突起を伸ばしたメラノサイト中のメラニンの増加のみという、volar melanotic maculeに相当する所見を認め

たため、giant volar melanotic maculeと仮称した。

Solitary labial lentigo⁴⁾あるいはlabial melanotic macule^{5,6)}として報告された口唇に出現する色素斑は、下口唇に圧倒的に多く⁶⁾、紫外線の影響が推測されている⁷⁾。組織学的には、基底層のメラニンの増加を特徴とし、volar melanotic maculeに対応するものと考えられた⁸⁾。ただし、volar melanotic maculeと異なり、樹枝状突起を伸ばしたメラノサイトは明らかでない。

Volar melanotic maculeにおける色素沈着の成因については、メラノサイトのメラニン産生の亢進よりも、手掌あるいは足底の表皮細胞のメラニン貪食機能の不全によりメラニン沈着を生ずると考えられている³⁾。すなわち、volar melanotic maculeでは、基底層のメラニン増加を主とするものが多く³⁾、メラノサイトの機能亢進によるメラニン増加とすれば表皮全層に及ぶメラニンの増加が期待されるからである。このようなピグメント・ブロックの最も著しいのが、メラニンが樹枝状突起を伸ばしたメラノサイトに集積しているタイプとされている³⁾。なお、giant volar melanotic maculeとしてここに報告した症例では、外傷に続発して色素斑が出現してきており、機械的刺激がきっかけになった可能性も考慮に入れる必要がある。

最後にvolar melanotic maculeは、単純黒子、母斑細胞母斑、悪性黒色腫との鑑別を要するが、これらの疾患では、メラノサイト数の増加を認め、組織学的に鑑別は容易である。このように、volar melanotic maculeでは、メラノサイト数の増加を認めないため、悪性化の可能性は低いと考えられる。本稿で報告したgiant volar melanotic maculeでも、臨床的所見は悪性黒色腫を強く示唆するが、volar melanotic maculeと同様に、悪性化の可能性は低いと考えられる。

文 献

- 1) Seiji, M., Takematsu, H., Hosokawa, M., Obata, M., Tomita, Y., Kato, T., Takahashi, M., Mihm M, C.: Acral melanoma in Japan, *J. Invest. Dermatol.*, **80**: 53s- 55s, 1983.
- 2) 竹松英明, 富田 靖, 加藤泰三, 清寺 真, 高橋正昭, 阿部力哉: Acral melanoma: 東北大学皮膚科43例の臨床的, 病理組織学的特徴, *西日皮膚*, **46**: 378-381, 1984.
- 3) Chapel, T. A., Taylor, R.M., Pinkus, H.: Volar malanotic macule, *Int. J. Dermatol.*, **18**: 222-225, 1979.
- 4) Shapiro, L., Zegarelli, D.J.: The solitary labial lentigo: A clinicopathologic study of twenty cases, *Oral Surg.*, **31**: 87-92, 1971.
- 5) Weathers, D.R., Corio, R.L., Crawford, B.E., Giansanti, J.S., Page, L.R.: The labial melanotic macule, *Oral Surg.*, **42**: 196-205, 1976.
- 6) Spann, C.R., Owen, L.G., Hodge, S.J.: The labial melanotic macule, *Arch. Dermatol.*, **123**: 1029-1031,
- 7) McGovern, V.J.: *Melanoma: Histological Diagnosis and Prognosis*, Raven Press, New York, 1983.